

地区の概要

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/34532

1. 地区の概要

西 本 陽 一

1. はじめに
2. 若山町の5集落
3. 人口の動態
4. おわりに

1. はじめに

金沢大学文化人類学研究室では、2012年度の3年次学生を主対象とする調査実習を、石川県珠洲市若山町にある経念（きょうねん）、古蔵（ふるくら）、中田（なかた）、火宮（ひみや）、向（むかい）の5集落において実施した。本報告書はこの調査実習に参加したメンバーが執筆した報告によって構成されており、当研究室の調査実習報告書としては28冊目のものになる（既刊の調査実習報告書一覧については巻末の「参考文献・参考資料」を参照のこと）。

本調査実習では、金沢大学文化人類学研究室のこれまで調査実習と同様に、上記の5集落を対象に、住民生活全般の変化と現状の把握を目的としている。そのために、4月から7月までは、文献・資料・各種センサスを学生が分担して発表し、文献データから対象集落を知ることを目指した。夏休みの2012年8月22日から29日までの8日間には、珠洲市飯田町の民宿に滞在し、5集落の住民の方々に対する集中的な聞き取りをおこなった（「本調査」と呼ぶ）。その際、参加学生はとくに自分の調査テーマを決めず、地域生活の全般について幅広く聞き取りしてゆく方法を用いた。本調査の終わりの段階ではじめて各学生にそれぞれ関心をもったテーマを挙げさせ、10月からはそれぞれのテーマにもとづいて、データの整理と分析、中間発表、また必要に応じて補充調査をおこなった（調査日程については本書「おわりに」を参照のこと）。

調査対象集落については、当初より、珠洲市郊外で、集落規模200世帯あまりの範囲を探した。この方針は、はじめてフィールドワークをおこなう学生にとっての取り組みやすさと、これまでの経験から、参加予定の学生13名による調査に適した大きさの範囲を考えたためである。また、2010年度より珠洲市での調査実習を継続していたため、調査対象の地域に対して、実習の申し入

れをすることが比較的容易だったという理由もある。これらのほかに、調査対象の選定について深い理由はない。

本報告書でも、従来のそれと同じく、2章以下の各章では、それぞれの執筆者が関心をもったテーマにもとづいて執筆しているので、全体として対象として地域について網羅的、体系的な記述がなされているわけではない。そこで導入部となる本章では、調査対象の地域について、立地、行政上の位置づけ、人口と世帯、生業と生活一般について短い記述をおこなったうえで、地区と集落の特徴について若干の指摘をおこない、以下に続く各章への導入としたい。

2. 若山町の5集落

珠洲市は、石川県の東北端、能登半島の先端部に位置し、市域の三方を海で囲まれている。宝立（ほうりゅう）山（468m）を東に仰ぎ、等南は緩傾斜で海岸平野を形成しており、人口の大部分は、富山湾沿岸の平野部に集中する（『角川地名大辞典 17 石川県』）。若山町は、珠洲市の中心部を東に流れた後に南転して飯田湾に到る若山川下流の両側に広がる。

交通としては、若山川に沿って国道 249 号線が通り、若山町と珠洲市の中心である飯田を結んでいる。鉄道は、穴水からの国鉄能登線が昭和 39（1964）年に蛸島まで開通したが、のちに第三セクターへ移行した後、平成 17（2005）年に廃止となった。路線バスも、利用者の減少とともに便数を減らしており、主要な交通手段は自家用車であるが、住民の高齢化により問題となっている。

若山町は現在、国勢調査の単位としては、23 の集落から成る。一方、昔からの集落単位では、若山川下流側の 10 集落は「里ジッカ」、上流側の 10 集落は「山ジッカ」と呼ばれてきた（A さん、経念、男性、85 歳）。また、東側の半分は「東若山」と呼ばれ、昨年度の調査対象集落である出田（すった）、広栗（ひろぐり）、鈴内（すずない）に今年度の調査対象の 5 集落を加えた単位とほぼ一致する。婦人会は東若山を単位とした「東若山婦人会」が中心的な活動主体である。本年度の調査対象の 5 集落は、若山川をさかのぼり、出田、広栗、鈴内を過ぎた若山町の中心側に位置している。調査対象の 5 集落のうち、経念、中田、向の 3 集落は若山川の南側に位置する一方で、古蔵、火宮の 2 集落は北側に位置する。

5 集落はいずれも 1970 年代ごろまでは、集落の殆どの世帯が農業を営んでいた。また、主要産物は米であり、畑作は自家消費のための小規模なものだった。1990 年以降には、1974 年から開始された国営農地開発事業による山地開拓により、それまで殆どなかったリンゴやクリなどの果樹栽培が見られるが、これも小規模である（農業については本書 3、4 章を参照のこと）。

5 集落の「おやっさま」と呼ばれる名家では、広い山林を所有している場合があった。山林は塩

木（製塩のための木）、炭焼き、家を建てるための材木として利用された。

農林業以外の仕事としては、農閑期の出稼ぎがあり、「能登杜氏」の名のとおり、酒造りは主要な出稼ぎのひとつであった。このほか、女性の場合は紡績工場や稲刈りなどの出稼ぎの仕事があった。さらに、中田集落にあった石膏鉱山は、昭和44（1969）年の閉山まで、地元にいながら従事できる大きな仕事口であった（富樫 2012 参照）。

以下では、5 集落それぞれについて、特徴を述べてゆく。

経念

経念は若山川流域の穀倉地帯であった。かつて東若山小学校があったが、統合小学校である若山小学校の新設によって、昭和56（1981）年に閉校となった。経念は「東若山小学校、駐在さん、消防の東倉庫があり、若山の中心だった」という（Aさん）。東若山小学校跡は、縫製工場（スズワン若山工場）に転用されたが、現在はこれも閉鎖されている。

経念にある古麻志比古神社は、延喜式内社の格式をもつ古い神社である。現在はかつてほどの賑わいはないが、御輿が廻り、それを先導して太鼓山（その上で太鼓を叩く山車）が出る春祭りが盛んであった。また5 集落で唯一虫送り（現在は6月17日に開催）が行なわれている。

古蔵

古蔵は東は経念、西は火宮に接し、若山川の北側に位置する。旧若山村役場の所在地であり、現在は若山小学校や若山郵便局がある。古蔵にはかつて縫製工場として三和被服株式会社や能登縫製株式会社があり、特に後者は旧若山中学校の校舎跡地を利用し、地元の人々の重要な働き口となっていた。

祭祀面では地内に曹洞宗新豊山昌樹寺と八百神社がある。八百神社の秋祭りは、御輿とキリコが出て賑やかなものだったが、若者や子供の減少で、御輿とキリコを出さない年の方が多くなっている（Bさん、古蔵、男性、59歳）。

中田

中田は若山川の南側に位置する。集落内を中田川（若山川に合流する川）が流れ、用水に堀切（ほりきり）用水と懸之（かけの）用水がある。

中田にはかつて大宝鉱山などの石膏鉱山があった。石膏鉱山は一時は「東洋一」とも言われ、地元の多くの労働力を吸収したが、天然石膏への需要の減少により、昭和44（1969）年に閉山した。

中田の神社は加曾神社である。一番大きな祭りは春祭り（現在は4月18日に開催）で、かつては御輿や太鼓山が出て賑やかであったが、これらも「13年ほど前」（単純計算すると1999年頃）

から出されなくなっているという（Cさん、中田、男性、70歳）。

火宮

火宮は、若山川中流の北側に位置する。集落内を火宮川が流れ、懸之用水がある。当集落の田中茂好家は、この辺で唯一アエノコトをおこなっている家として、新聞などの取材を受けている。

火宮集落については、武蔵野美術大学の学生グループによって、昭和45（1970）年から約二年間にわたって、民俗学者・宮本常一の指導の下で詳細な調査がおこなわれている。その成果は（武蔵野美術大学グループ「核」1972）や（武蔵野美術大学火宮調査グループ1989）として発表されている。

地内には谷内神社がある。もっとも盛んな祭りは春祭り（現在では4月14日に開催）で、2012年には「6年ぶりに御輿と太鼓山をした。たまたま若い人がたくさん出てくるようになったから」（Dさん、火宮、男性、67歳）ということだった。

向

向は、若山川中流の南側に位置する。地名は、延武村の川向かいにあることによる。

地内には大美和神社がある。神社の本祭りにはかつて御輿が出ていた。しかし、何百万円もかけて新調した御輿があるにもかかわらず、10年以上使われていない（Eさん、向、男性、40歳）。

3. 人口の動態

表1に挙げるのは、若山町5地区それぞれの世帯数および人口の動態である。また、5地区を合わせた世帯数および人口の動態を図1で示した。

人口は高度成長期に減少した後、1970年代と80年代には横ばいに推移し、その後現在まで再び減少の傾向にある。1950年代の数字がないものの、Aさんの言葉を借りれば、「昭和30（1955）年頃から若い人が減り始めた。もともと、出稼ぎは酒造りだけだったが、高度成長期に都会で人が足りなくなり、昭和38（1973）年には『3ちゃん農業』、昭和39（1974）年には東京オリンピック」と続いたということである。Aさんの孫3人も他所に住んでおり、「もう帰ってこないだろう、地元には仕事がないし、（他所に出れば）他国の人と結婚する」からということであった。

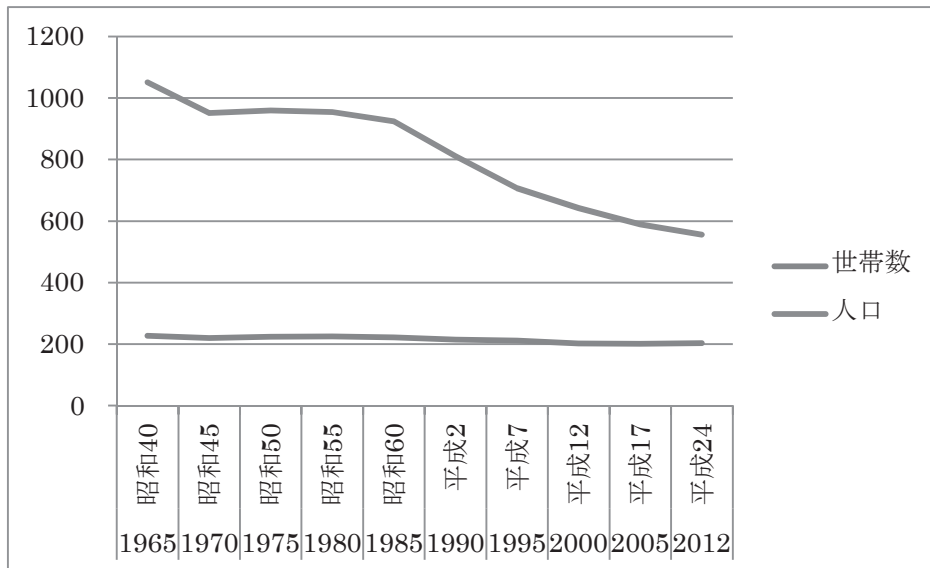
一方で世帯数は、1965年以降の減少もごく緩やかなものである。人口と世帯数の変化の結果は表1の世帯員数にも明らかで、1965年に世帯に平均4.6人の世帯員がいたのに2012年には平均2.7人にまで激減しており、世帯規模の縮小が顕著である。

表1 珠州市若山町経念、古蔵、中田、火宮、向の世帯数・人口動態 (単位：戸、人)

集落	項目	1873 M6	1889 M22	1965 S40	1970 S45	1975 S50	1980 S55	1985 S60	1990 H02	1995 H07	2000 H12	2005 H17	2012 H24
経念	世帯数	41	44	58	59	62	59	56	55	57	52	51	51
	人口	n.a.	246	295	263	250	237	236	203	174	151	136	124
	世帯人数	n.a.	5.6	5.1	4.5	4.0	4.0	4.2	3.7	3.1	2.9	2.7	2.4
古蔵	世帯数	17	17	39	40	43	41	44	42	41	39	38	37
	人口	n.a.	85	167	177	178	176	179	151	126	115	104	100
	世帯人数	n.a.	5.0	4.3	4.4	4.1	4.3	4.1	3.6	3.1	2.9	2.7	2.7
中田	世帯数	48	49	59	52	49	52	51	50	47	45	46	44
	人口	n.a.	251	269	214	213	214	194	181	159	150	134	117
	世帯人数	n.a.	5.1	4.6	4.1	4.3	4.1	3.8	3.6	3.4	3.3	2.9	2.7
火宮	世帯数	30	31	40	38	39	40	40	39	40	39	40	45
	人口	n.a.	170	179	164	177	185	183	164	144	132	136	137
	世帯人数	n.a.	5.5	4.5	4.3	4.5	4.6	4.6	4.2	3.6	3.4	3.4	3.0
向	世帯数	26	32	31	31	31	33	31	29	27	27	26	26
	人口	n.a.	173	141	133	141	142	132	112	104	94	79	78
	世帯人数	n.a.	5.4	4.5	4.3	4.5	4.3	4.3	3.9	3.9	3.5	3.0	3.0
合計	世帯数	162	173	227	220	224	225	222	215	212	202	201	203
	人口	n.a.	925	1051	951	959	954	924	811	707	642	589	556
	世帯人数	n.a.	5.3	4.6	4.3	4.3	4.2	4.2	3.8	3.3	3.2	2.9	2.7

出所：1873と1889の数字は『角川地名大辞典17 石川県』より、1965～2005年は各年の『市町地区別人口及び世帯の概数』から作成。2012年の数字は、平成24年5月31日付の住民台帳から集計した。

図1 若山町5地区の世帯数と人口の動態 (単位：戸、人)



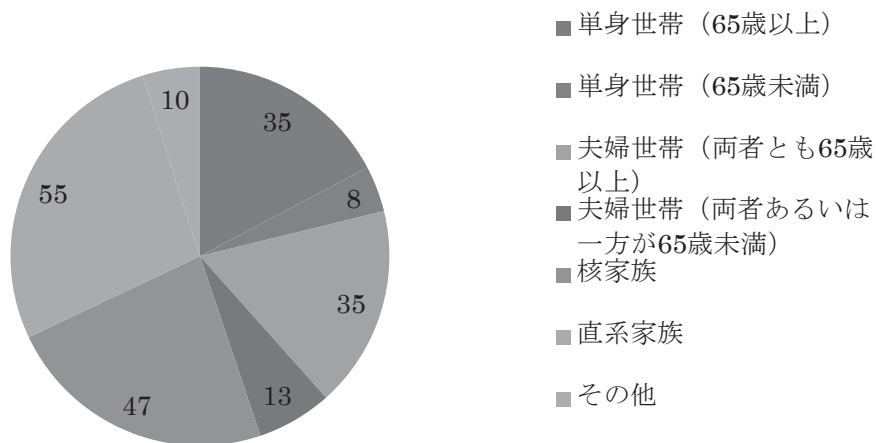
次に挙げるのは若山町5地区それぞれの世帯類型(表2) および若山町5地区を合計した世帯類型の割合である(図2)。若山町5地区を合わせた世帯類型のうち最も多いのは直系家族世帯(203世帯中55世帯、27.1パーセント)で、その中には夫婦とその親からなる世帯も含まれる。次に多いのは核家族世帯で、203世帯中47世帯で23.2パーセントを占める。この核家族世帯47のうち半分以上を占める27世帯が、40歳以上の未婚の子供を含んでいる。

表2 若山町5地区の世帯類型(単位:戸)

	経念	古蔵	中田	火宮	向	合計
単身世帯(65歳以上)	11	4	8	9	3	35
単身世帯(65歳未満)	3	3	1	1	0	8
夫婦世帯(両者とも65歳以上)	9	8	9	3	6	35
夫婦世帯(両者あるいは一方が65歳未満)	6	0	0	5	2	13
核家族	9	11	11	9	7	47
直系家族	11	10	12	15	7	55
その他	2	1	3	3	1	10
合計	51	37	44	45	26	203

出所: 2012年5月31日付住民台帳より集計

図2 若山町5地区の世帯類型(単位:戸)



出所: 2012年5月30日付住民台帳より作成。年齢は2012年の誕生日の満年齢。

直系家族と核家族が日本全体でも広く見られるのに対して、若山町5地区で顕著なのは、65歳以上の成員のみから成る単身世帯および夫婦世帯で（それぞれ35世帯、17.2パーセント）、ふたつを合わせると203世帯中70世帯、34.4パーセントを占める。このふたつのタイプの世帯は、言い換えれば65歳以上の高齢者のみから成る世帯であり、高齢者の世話や介護という点から考えると脆弱性の高い世帯と見られる。先に示した人口減少は壮年若年層を中心とした人口流失だと見られ、その結果が地域の高齢化の結果として現れている。

後に示すのは若山町5地区それぞれの男女別および年代別の人口構成である（表3）。図3は若山町5地区を合計した男女別および年代別の人口ピラミッドである。さらに若山町5地区の高齢化状況を表4に示した。

表3、4および図3からも若山町5地区の高齢化が見て取れる。若山町5地区全体の人口556人のうち65歳以上の高齢者は244人で、高齢化率は43.9パーセントである。とりわけ、男性の高齢者は261人中95人で36.4パーセントにとどまるのに対して、女性の高齢者は295人中149名が65歳以上で、50.5パーセントの高率を示している。5地区のなかではとくに古蔵の高齢化が顕著である（表4）。

Aさんほか住民の方々が話すとおり、若山町5地区はかつて農業の中でも米作中心に生計を立てていたが、米作は耕地整理や機械化によって人的な労働力投下を少なくすることができた分野である。壮年青年男性が外に仕事を求めたことによる人口減少と相まって、地域の高齢化が進んできたことが分かる。

4. おわりに

以上、若山町5地区の概要を、人口・世帯数の動態と世帯類型を中心に見てきた。かつて米作を中心としていた当地域は、高度成長期からの壮年若年層を中心とした人口減少のため、能登の他の地域社会と同様に過疎高齢化の状況を示している。その中でも各種地域組織を中心とした、地域を盛り上げようとする試みがつづけられていることは、以下の各章で見るとおりである。

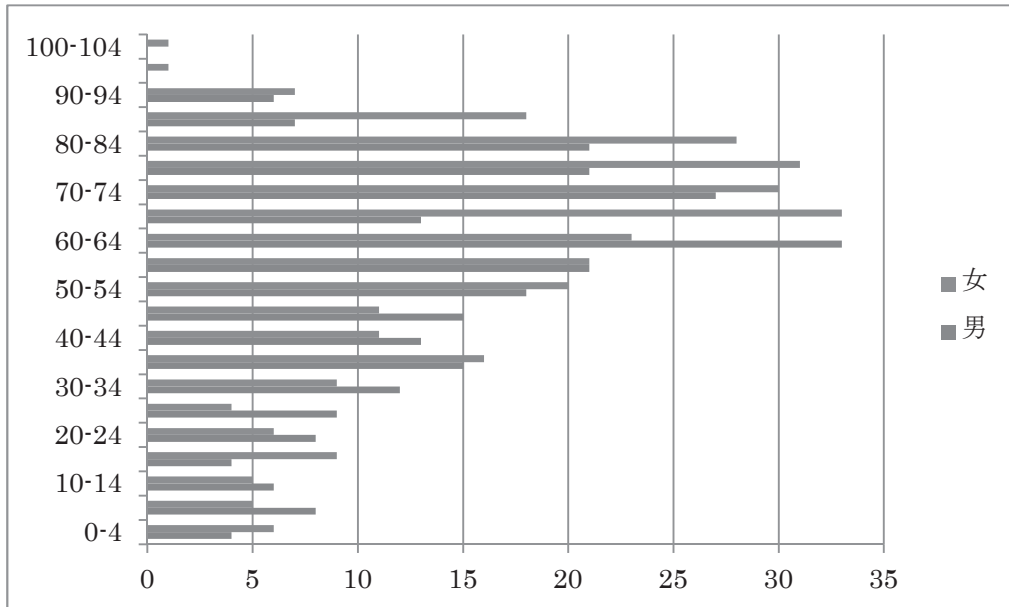
短い本調査期間とその後の散発的な補充調査で得られたデータは限られたものであり、若山町5地区の住民の方々のなかにもお話をうかがう機会のなかった方も多い。なによりも学生の実習ということで調べる側の未熟さは言うまでもない、本報告書の記述にも分析にも不十分な点が多々あるものと自覚している。関係各位の忌憚のないご批判とご叱正をお願いする次第である。

表3 若山町5地区の年齢別人口（単位：人、歳）

地区 年齢	経念			古蔵			中田			火宮			向			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0-4	0	0	0	0	1	1	1	1	2	1	4	5	2	0	2	4	6	10
5-9	1	1	2	2	0	2	2	0	2	1	4	5	2	0	2	8	5	13
10-14	0	0	0	0	2	2	0	0	0	3	3	6	3	0	3	6	5	11
15-19	1	1	2	0	2	2	1	2	3	2	1	3	0	3	3	4	9	13
20-24	3	1	4	1	1	2	2	2	4	1	2	3	1	0	1	8	6	14
25-29	3	2	5	2	1	3	3	1	4	1	0	1	0	0	0	9	4	13
30-34	3	0	3	1	2	3	3	1	4	2	4	6	3	2	5	12	9	21
35-39	3	3	6	0	3	3	1	3	4	10	4	14	1	3	4	15	16	31
40-44	3	2	5	4	2	6	2	3	5	3	3	6	1	1	2	13	11	24
45-49	1	1	2	3	0	3	5	3	8	4	5	9	2	2	4	15	11	26
50-54	5	5	10	3	2	5	3	5	8	5	4	9	2	4	6	18	20	38
55-59	10	6	16	5	4	9	2	5	7	1	4	5	3	2	5	21	21	42
60-64	5	6	11	2	2	4	11	3	14	10	8	18	5	4	9	33	23	56
65-69	1	3	4	3	12	15	2	6	8	4	6	10	3	6	9	13	33	46
70-74	4	11	15	10	6	16	4	7	11	7	4	11	2	2	4	27	30	57
75-79	6	10	16	4	6	10	3	7	10	4	5	9	4	3	7	21	31	52
80-84	8	5	13	5	4	9	3	9	12	2	7	9	3	3	6	21	28	49
85-89	0	5	5	1	3	4	2	6	8	3	1	4	1	3	4	7	18	25
90-94	2	2	4	0	0	0	1	2	3	2	2	4	1	1	2	6	7	13
95-99	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
100-104	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	59	65	124	46	54	100	51	66	117	66	71	137	39	39	78	261	295	556

出所：2012年5月30日付住民台帳より作成。年齢は2012年の誕生日の満年齢。

図3 若山町5地区の男女別および世代別の人口構成 (単位:人)



出所: 2012年5月30日付住民台帳より作成。年齢は2012年の誕生日の満年齢。

表4 若山町5地区の高齢化状況 (単位:人、%)

	経念			古蔵			中田		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
高齢者数 (人)	21	37	58	23	32	55	15	37	52
高齢化率 (%)	35.6	56.9	46.8	50.0	59.3	55.0	29.4	56.1	44.4

	火宮			向			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
高齢者数 (人)	22	25	47	14	18	32	95	149	244
高齢化率 (%)	33.3	35.2	34.3	35.9	46.2	41.0	36.4	50.5	43.9

出所: 2012年5月30日付住民台帳より作成。年齢は2012年の誕生日の満年齢。